

2020年度緊急学生生活調査

(コロナ禍・ハラスメントに関する状況と意識について)

集計結果速報

静岡文化芸術大学

2020年8月

2020年度緊急学生生活調査の集計結果のご報告

学生部長 小浜 朋子

コロナ禍により外出自粛を余儀なくされ、2020年度の前期は遠隔授業となり、学生は過去に例のない苦境におかれております。そこで本学は大学独自の取り組みとして、緊急の学生生活調査を実施いたしました。この調査は学生の現状や意識を明らかにすることで、今後再開を予定している対面授業や学生支援策の立案に反映することを目的としています。また、学内のハラスメントに関わる実態と要望の把握を行い、先般のハラスメントの不祥事に対して早急に再発防止を行うことも目的に加えております。

今回の調査は回答率が52.2%と例年に比べてかなり高く（昨年度の定期学生生活調査の回答率は34.4%）、自由記述にも多くの貴重なコメントを頂きました。ご協力を頂きました皆さんにはこの場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

この集計結果では、実態がよりわかりやすくなるよう、分析に少し工夫をいたしました。

コロナ禍の影響が懸念される項目（設問1-1～1-9、2-1～4-1）については、入学して間もない「1年生」と、共同生活者がいない「一人暮らしの下宿生」をクロス集計に加えて、その影響が把握できるように分析しています。また、定期の学生生活調査と同じ項目（設問1-5、1-6、1-7、1-9、2-2）については、コロナ禍前後の変化が捉えやすいよう、昨年度の調査結果を併記しています。一方、ハラスメントに関する項目（設問5-1～5-3）では、学生全体の単純集計に学年ごとのクロス集計を加え、学年による傾向がわかるように結果をお示ししています。

本学では、この調査結果を学内で広く共有し、さらなる分析を加えつつ、まだ収束の見通しが見えないコロナ禍の中でも、より快適にキャンパスライフをおくることができるように大学の諸施策を反映させてまいります。また、ハラスメントの再発防止に向けては、早速この内容を基に、現実に即した啓発プログラムを考え始めております。今後とも大学を構成する多くの皆様のお知恵とご協力を賜れましたら幸いです。

学生生活調査について

1 調査の概要

(1) 調査目的

コロナ禍の影響により、遠隔授業や外出自粛を余儀なくされている学生の現在の状況や意識を調査し、今後再開を予定している対面授業や学生支援策の参考とする。

併せて、令和元年度のハラスメント事案発生を受けて、学内のハラスメントに関わる実態と要望を把握し、今後のハラスメント防止対策の参考とする。

(2) 調査の内容

設問Ⅰ	コロナ禍による生活への影響……………	3 ページ
設問Ⅱ	コロナ禍による家計への影響……………	7 ページ
設問Ⅲ	遠隔授業の実施や対面授業の再開について……………	9 ページ
設問Ⅳ	大学のコロナ感染症対策について……………	11 ページ
設問Ⅴ	ハラスメント（いじめ・嫌がらせ）について……………	12 ページ

(3) 調査対象

令和2年7月1日時点で在籍している学部生1～4年生及び大学院1・2年生（休学者は除く）

(4) 調査の実施時期

令和2年7月8日（水）～15日（水）

(5) 調査の方法

グーグル社が提供するプラットフォーム「Google フォーム」を利用し、WEB 上での回答を依頼。

(6) 回答結果

	対象者（人）	回答数（件）	回答率（%）
学部計	1,406	734	52.2
学部1年生	348	194	55.7
学部2年生	352	200	56.8
学部3年生	338	165	48.8
学部4年生	368	175	47.6
大学院計	38	20	52.6
大学院1年生	20	10	50.0
大学院2年生	18	10	55.6
計	1,444	754	52.2

（参考）令和元年度学生生活調査…対象者数 1,446 人 回答数 498 件、回答率 34.4%

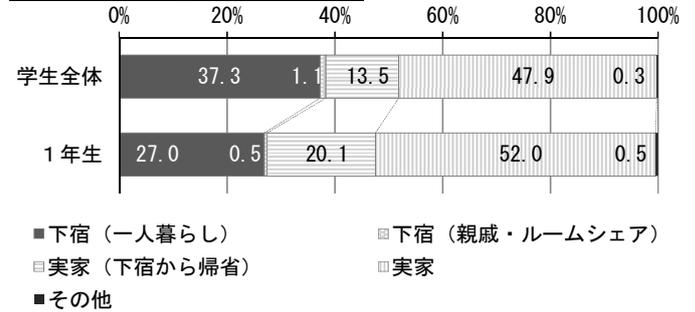
設問 I コロナ禍による生活への影響

設問 I-1

現在の住まい ▶ 4 割弱の学生が一人暮らしを継続中

学生全体では「下宿（一人暮らし）」を続けている学生は 37.3%で、1年生に限ると 27.0%となっている。「実家（下宿先から帰省）」の学生は 13.5%で、下宿していた学生のおよそ 4分の1が帰省している状況となっている。

Q:現在の住まいを教えてください。



設問 I-2

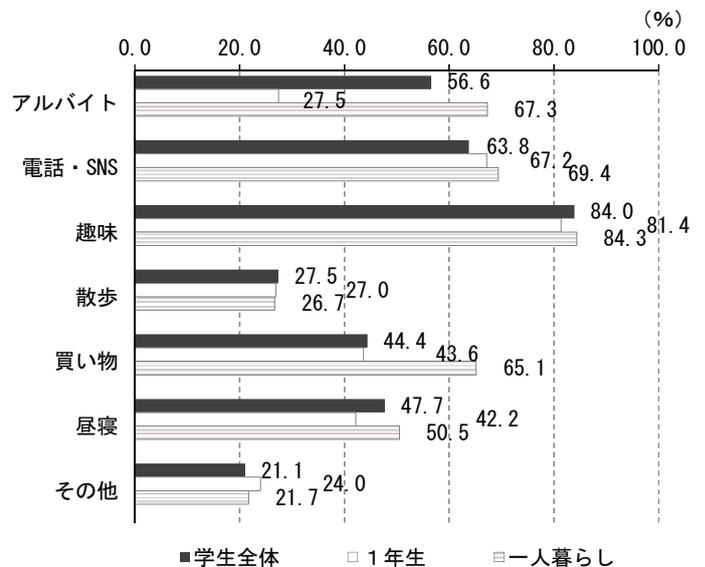
余暇の過ごし方 ▶ 趣味が最多、電話・SNS、アルバイトも多い

6月以降の授業に費やす時間以外の過ごし方について、学生全体では「趣味（読書・ゲーム・動画の鑑賞等）」が 84.0%と最も多く、続いて「電話・SNS」が 63.8%、「アルバイト」が 56.6%となっている。

Q:6月以降、授業に費やす時間以外は、どのように過ごしていましたか（該当する項目全て選択）。

その他の回答（5件以上の類似回答があった項目）

- ・就職活動（51件）
- ・課題・制作（33件）
- ・自動車学校（29件）
- ・授業以外の勉強（17件）
- ・家事（15件）

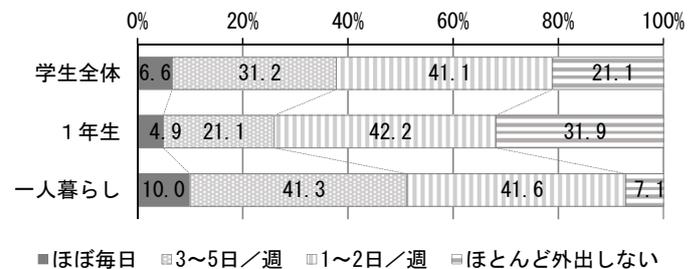


設問 I-3

外出の頻度 ▶ 約 6 割超の学生が 1～2 日/週以下

6月以降の外出の頻度について、学生全体では「1～2日/週」が 41.1%、「ほとんど外出しない」が 21.1%となっており、外出の頻度が 1～2/週以下の学生は 6 割を超えている。一人暮らしの学生は、学生全体に比べて、「ほぼ毎日」と「3～5日/週」の割合が大きく、実家等で共同生活者がいる場合よりも外出の頻度が高い傾向がある。

Q:6月以降、外出の頻度はどの程度でしたか。



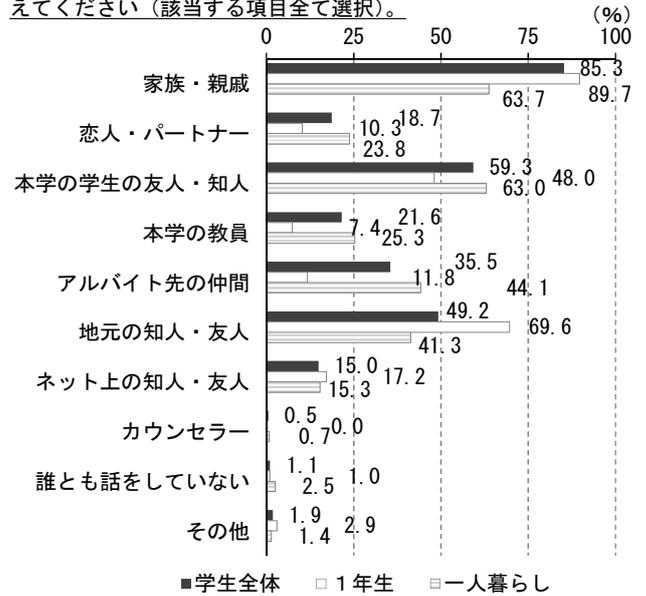
設問 I-4

会話・連絡相手 家族・親戚、本学の学生、地元の知人・友人の順

学生全体では、「家族・親戚」が85.3%と最も高く、続いて「本学の学生の友人・知人」が59.3%、「地元の友人・知人」が49.2%となっている。

1年生は、学生全体に比べて「恋人・パートナー」「本学の学生の友人・知人」「本学の教員」「アルバイト先の仲間」の各割合が小さく、「家族・親戚」「地元の知人・友人」「ネット上の知人・友人」の各割合が大きくなっている。

Q: 6月以降、週に1回以上会話や連絡をしている相手を教えてください(該当する項目全て選択)。



その他の回答 (3件以上の類似回答があった項目)

- ・自動車学校の職員 (3件)
- ・ボランティアの仲間 (3件)
- ・職場・インターンの仲間 (3件)

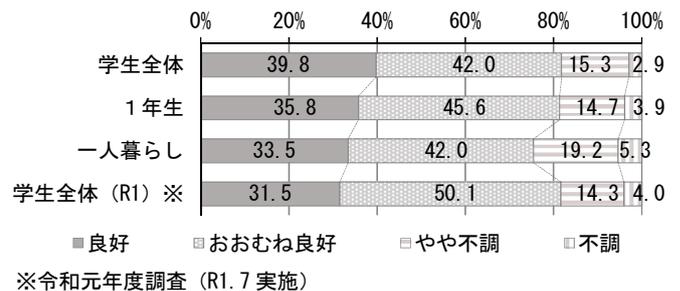
設問 I-5

健康状態 全体的には1年前の調査時から悪化とも改善とも言えない状況

学生全体では、「不調」が2.9%、「やや不調」が15.3%となっている。1年前(令和元年度)の調査時と比べて、「おおむね良好」と「不調」の割合が小さく、「良好」と「やや不調」の割合が大きくなっているが、全体的に大きな変化は認められない。

一人暮らしをみると、学生全体と比べて、「やや不調」と「不調」の割合が大きくなっている。

Q: 現在の健康状態をどう思いますか。

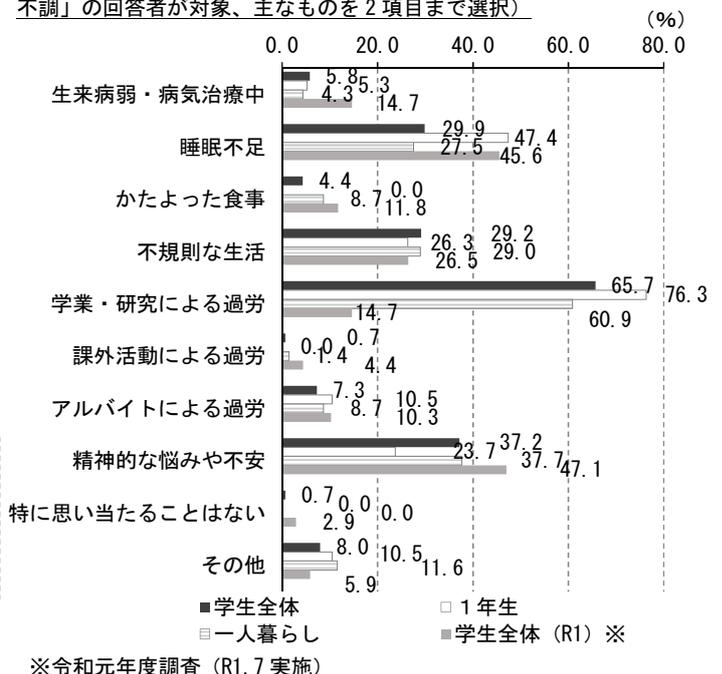


設問 I-6

不調の理由 学業・研究による過労が50ポイント以上増加

不調の理由について、学生全体では「学業・研究による過労」が65.7%と最も多く、続いて「精神的な悩みや不安」が37.2%、「睡眠不足」が29.9%となっている。特に、「学業・研究による過労」は、1年前(令和元年度)の調査と比べて、50ポイント以上増加している。また、1年生については、「学業・研究による過労」と「睡眠不足」を挙げた学生の割合が学生全体に比べて大きくなっている。

Q: 不調だと思う理由は何ですか。(設問 I-5「不調」または「やや不調」の回答者が対象、主なものを2項目まで選択)



その他の回答 (3件以上の類似回答があった項目)

- ・天候による体調不良 (3件)
- ・外出できないストレス・運動不足 (3件)

設問 I-7

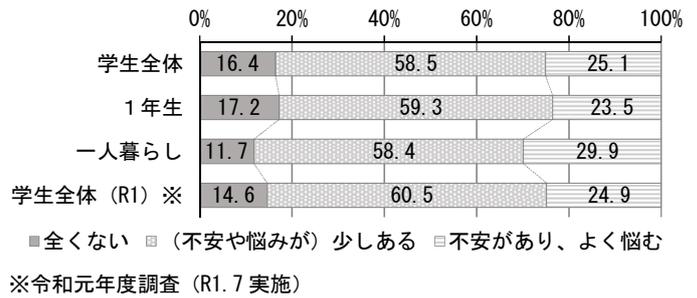
不安や悩み

1年前の調査時から特に変動なし。一人暮らしは不安がやや多め

学生全体では、「全くない」が16.4%、「不安や悩みが少しある」が58.5%、「不安があり、よく悩む」が25.1%となっている。

一人暮らしの学生は、学生全体と比べて、「不安があり、よく悩む」の割合が4.8ポイント高くなっている。

Q: 現在、不安や悩みがありますか。



設問 I-8

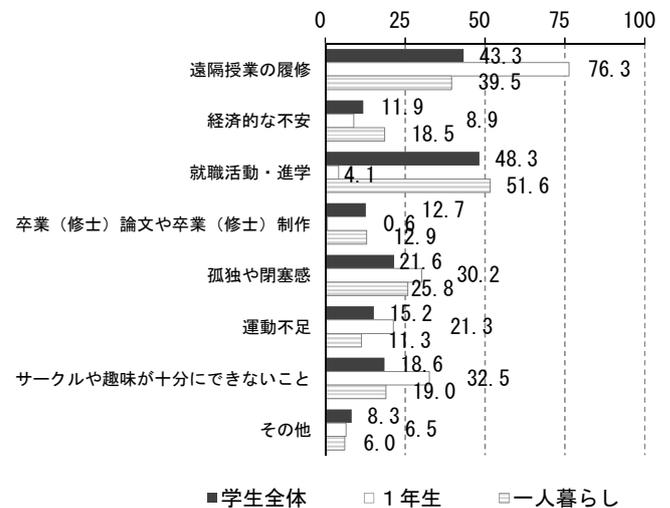
不安の理由

就職活動が最多、次に遠隔授業の履修

不安や悩みの理由について、学生全体では「就職活動」が48.3%と最も多く、続いて「遠隔授業の履修」が43.3%となっている。

1年生については、「遠隔授業の履修」が76.3%と最も多く、続いて「サークルや趣味が十分にできないこと」が32.5%、「孤独や閉塞感」が30.2%となっている。

Q: 不安や悩みの原因は何ですか。(設問 I-7「不安があり、よく悩む」または「不安や悩みが少しある」の回答者が対象、主なもの2項目まで選択)



その他の回答 (3件以上の類似回答があった項目)

- ・課題の多さ(それによる睡眠不足) (9件)
- ・アルバイト(アルバイトができない、仕事内容の不满等) (5件)
- ・後期からの授業の形態 (5件)
- ・留学が思うようにできない (3件)
- ・人間関係 (3件)
- ・健康 (3件)

設問 I-9

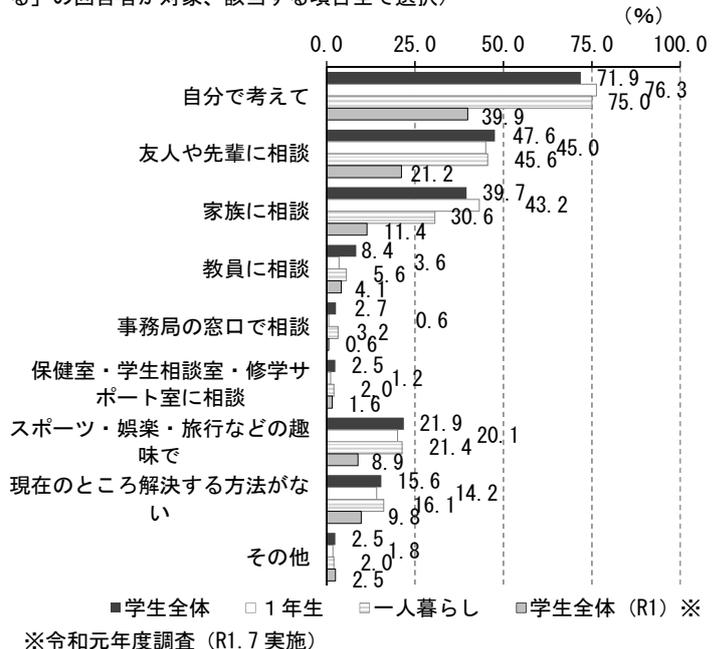
不安等の解消法

「自分で考える」や「誰かに相談する」が大幅に増加

不安や悩みの解消法について、学生全体では「自分で考えて」が71.9%と最も多く、続いて「友人や先輩に相談」が47.6%、「家族に相談」が39.7%となっている。

1年前(令和元年度)の調査と比べて、「自分で考えて」や、「友人や先輩」「家族」「教員」「事務局の窓口」「保健室・学生相談室・修学サポート室」への相談がいずれも増加しており、それぞれの学生が苦労しながら、不安や悩みを解消している様子がうかがえる。

Q: 不満や悩みをどのように(解決・相談)して解消していますか。(設問 I-7「不安があり、よく悩む」または「不安や悩みが少しある」の回答者が対象、該当する項目全て選択)



その他の回答 (3件以上の類似回答があった項目)

- ・医師・看護師に相談・通院 (3件)

Q：自粛生活や遠隔授業の中で、自身の心境や行動はどのように変化しましたか。「よくないと思う変化」があれば教えてください（自由記述）。

全回答のうち、10件以上の類似回答があった項目は以下のとおり（かっこの数字は類似の回答の数）。なお、分かりやすさや文体の統一のため、原文は文意を損なわない程度で加除修正している。

体と心の健康に関すること

- > 生活リズムの乱れ (96)
 - ・生活にメリハリがなく、だらけてしまう。
 - ・夜中まで課題をやるため、昼間に眠ってしまう。
 - ・時間の縛りがほとんどないため、やるべきことを先延ばしにしたり、生活リズムが狂った。
 - ・食生活が適当になった。 など
- > 孤独や不安 (79)
 - ・友人に会えないことで孤独感が増した。
 - ・周囲の状況（学内、学外）を把握しにくいことに不安を感じる。
 - ・経済的に厳しいので学業に専念できておらず、不安でいっぱいである。
 - ・いざ外に出たときに他の人と会話できるか不安である。 など
- > 運動不足 (37)
 - ・通学に自転車を利用していたが、それがなくなったために運動量が著しく低下した。
 - ・今まで以上に運動不足になった。
 - ・運動しないため食べる量が減って体調が悪い。 など
- > 意欲や関心の変化 (24)
 - ・見通しがつかないため、勉強や課外活動などに対する意欲がなくなった。
 - ・遠隔授業でずっと自宅にいて友達にも会えないので、授業に対するやる気も湧きにくい。
 - ・働きたいとか、外に出たいという意欲がほぼなくなった。 など
- > 遠隔授業による疲労・体調不良 (21)
 - ・課題が多く、ずっと椅子に座っているため、背中や腰に負担がかかっている。
 - ・課題のためにパソコンを見る時間が多いため、肩凝りや眼精疲労を感じる。 など

履修に関すること

- > 課題による精神的負担 (51)
 - ・とにかく課題に追われ、苦しい。
 - ・課題を多く抱え、映画鑑賞やテレビをみるのも罪悪感があり、息抜きにならない。
 - ・課題が多すぎて心の余裕がなく、就職活動の準備に充てる時間がない。 など

(次頁に続く)

＞ 学習意欲の低下 (29)

- ・ 周りに他の学生がいないため、課題などの苦勞を共有できず、やる気がでなかった。
- ・ 留学したいと考えていたが、できるとは考え難くなり、またやりたいと思っていたことがうまくできないため、意欲がわかなくなった。 など

他人とのコミュニケーションについて

＞ コミュニケーションの機会の減少 (29)

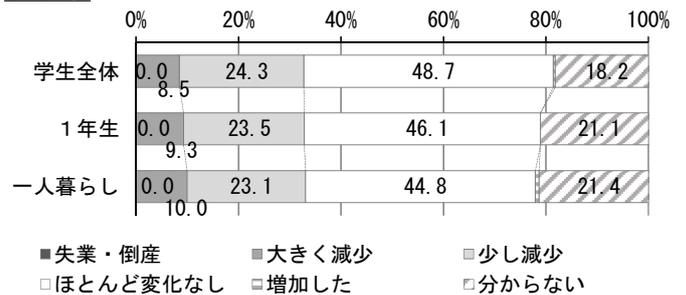
- ・ 一人暮らしなので、直接人と会話する機会が驚くほど減った。
- ・ 親友や恋人など気の知れた人とはオンラインでも話すが、会って話す程度の友人達と会話する機会がない。
- ・ いざ外に出たときに他の人と会話できるか不安。 など

設問Ⅱ コロナ禍による家計への影響

設問Ⅱ-1 家庭への影響 ▶ 3割強の学生の家庭がコロナ禍により収入減

生計維持者（両親等）の収入状況について、学生全体では「大きく減少した」が8.5%、「少し減少した」が24.3%となっており、これらを合わせると3割強となっている。この他、「ほとんど変化なし」が48.7%、「増加した」が0.4%となっている。

Q: コロナ禍により生計維持者（両親等）の収入状況に影響はありましたか。

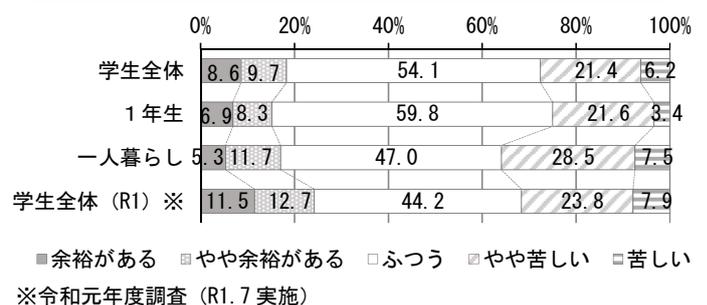


設問Ⅱ-2 経済状況の印象 ▶ 3割弱の学生が「やや苦しい」または「苦しい」

自身の経済状況の印象について、学生全体で「やや苦しい」と「苦しい」を合わせた数は27.6%で、1年前(令和元年度)の調査時の31.7%と比べて、4.1ポイント減少している※。

※令和2年度より開始した修学支援新制度がプラスの影響を与えている可能性に留意が必要。

Q: 今現在、自分の経済状況についてどのように感じていますか。



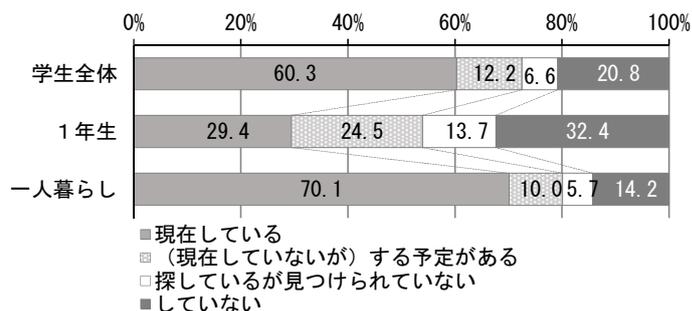
※令和元年度調査 (R1.7 実施)

設問Ⅱ-3

アルバイト 新入生の1割強がアルバイトに就けない状況

アルバイトの実施状況について、「探しているが見つけれられない」と回答した学生は、学生全体で6.6%、1年生で13.7%となっている。

Q:アルバイトをしていますか。

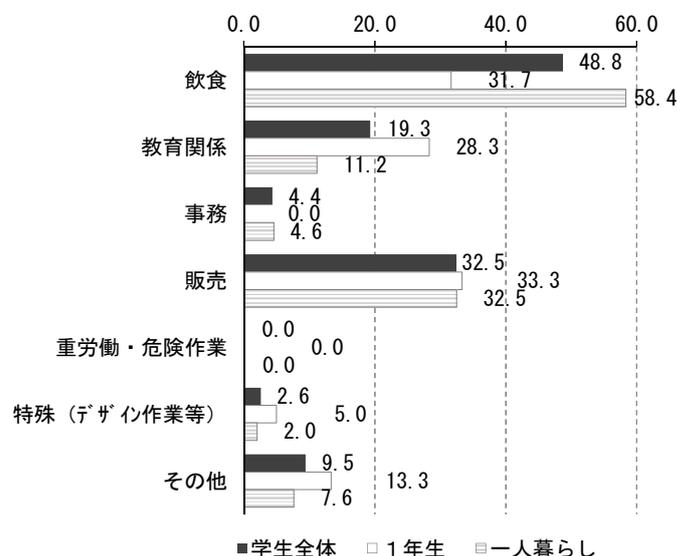


設問Ⅱ-4

アルバイトの業種等 飲食、販売、教育関係が多い

アルバイトの業種・職種は、学生全体で「飲食(居酒屋・カフェ・レストラン等)」が48.8%と最も多く、続いて「販売(コンビニ・ドラッグストア・スーパー等)」が32.5%、「教育関係(塾講師、家庭教師等)」が19.3%となっている。

Q:アルバイトの業種・職種を教えてください(設問Ⅱ-3「現在している」の回答者のみ対象、該当する項目全て選択)。(%)



その他の回答(3件以上の類似回答があった項目)

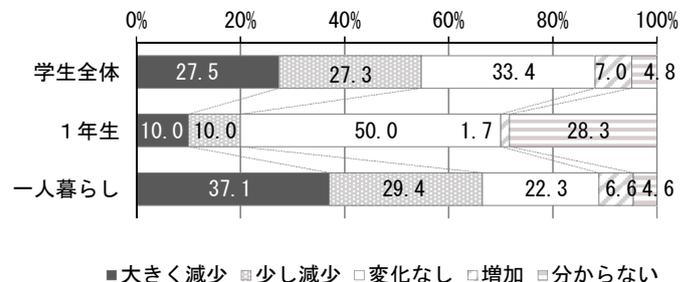
- ・ホテルのフロント業務等(8件)
- ・フィットネスクラブ・ジム・インストラクター(5件)
- ・ブライダル(3件)

設問Ⅱ-5

アルバイト収入 半数以上がアルバイトで減収、一人暮らしの学生が顕著

アルバイト収入の変化は、学生全体で「大きく減少」が27.5%、「少し減少」が27.3%となっており、これらを合わせると半数以上となっている。特に、一人暮らしの学生については、「大きく減少」と「少し減少」を合わせると66.5%で、6割を超えており、より顕著となっている。

Q:コロナ禍によりアルバイトの収入に変化がありましたか。(設問Ⅱ-3「現在している」の回答者のみ対象)

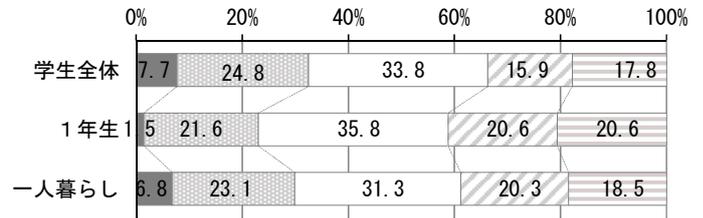


設問Ⅲ 遠隔授業の実施や通常授業の再開について

設問Ⅲ-1 遠隔授業の印象 不満を感じる学生がおよそ半数

遠隔授業の全体的な印象について、学生全体で「不満」と「やや不満」の合計は49.7%とおよそ半数となっており、「満足」と「やや満足」の合計32.5%を上回っている。

Q:遠隔授業について全体的にどのような印象をもっていますか。



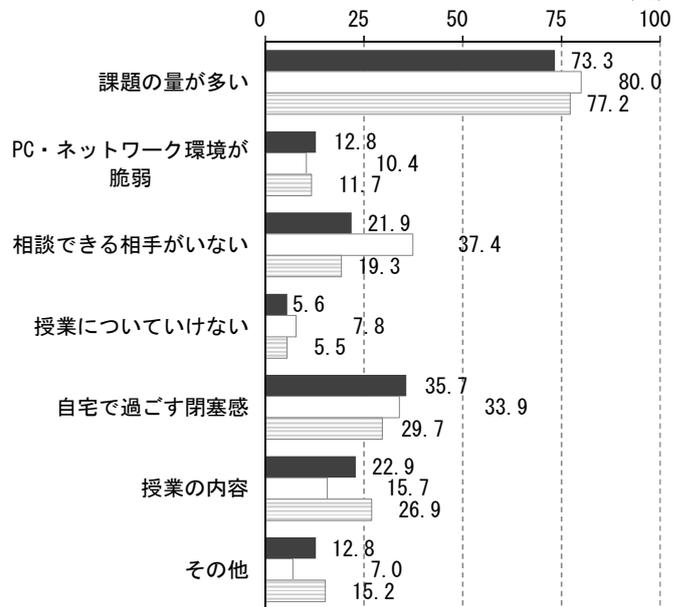
■満足 □やや満足 □やや不満 □不満 □どちらともいえない

設問Ⅲ-2 不満の理由 課題の量が多いことが最多。1年生は相談相手の不在も

遠隔授業が不満と感じる理由について、学生全体で「課題の量が多い」が73.3%と最も多く、続いて「自宅で過ごす閉塞感」が35.7%、「授業の内容」が22.9%となっている。

1年生については、「相談できる相手がいない」が37.4%と、学生全体よりも15.5ポイント多くなっている。

Q:不満を感じる理由は何ですか(設問Ⅲ-1「不満」「やや不満」の回答者が対象、主なものを2項目まで選択)。



■学生全体 □1年生 □一人暮らし

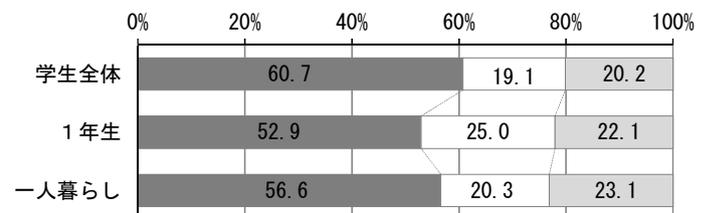
その他の回答 (3件以上の類似回答があった項目)

- 授業の時間や質にバラツキがある (14件)
- 集中できない。だらけてしまう (5件)
- 家の電気代が増えた (3件)
- 図書館が使えない (3件)
- 実技や制作ができない (3件)
- 工房や演習室が自由に使えない (3件)

設問Ⅲ-3 相談相手の有無 約2割の学生は相談相手が不在

遠隔授業の内容について、相談できる相手が「いない」割合は、学生全体で19.1%であるのに対して、1年生は25.0%と5.9ポイント大きくなっている。

Q:遠隔授業の内容について相談できる相手はいますか。



■相手がいる □相手がいない □よくわからない

設問Ⅲ-4

相談相手の種類 1年生は学科・サークルの友人・知人が少ない

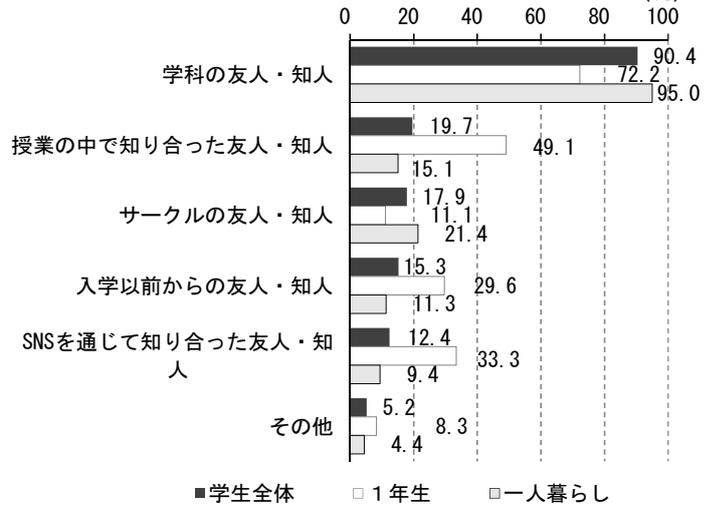
遠隔授業の相談相手について、大学全体で「学科の友人・知人」が90.4%、「授業の中で知り合った友人・知人」が19.7%、「サークルの友人・知人」が17.9%となっている。

1年生は、学生全体と比べて、「学科の友人・知人」と「サークルの友人・知人」の割合が小さくなっている。

その他の回答 (3件以上の類似回答があった項目)

教員 (10件)、家族 (6件)、大学以外の知人・友人 (3件)、
バイト仲間・先輩 (3件)

Q:相談できる相手はどのような方ですか (設問Ⅲ-3「相手がいる」の回答者が対象、該当する項目全て選択)。(%)

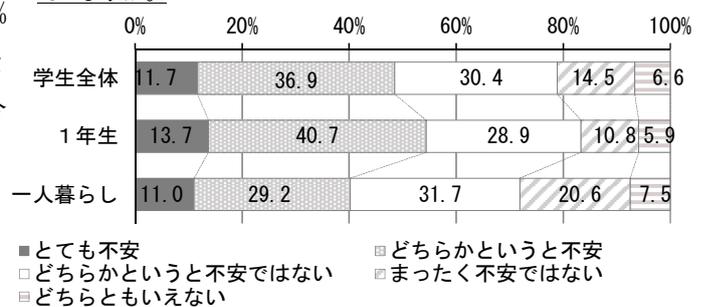


設問Ⅲ-5

授業再開の不安 約半数の学生は通常授業の再開に不安

通常授業の再開について、学生全体で「とても不安」と「どちらかという不安」の合計は48.6%でおおよそ半数となっており、「どちらかという不安ではない」と「まったく不安ではない」の合計44.9%を若干上回っている。

Q:今後、通常授業が再開されることについて、どの程度不安に感じていますか。



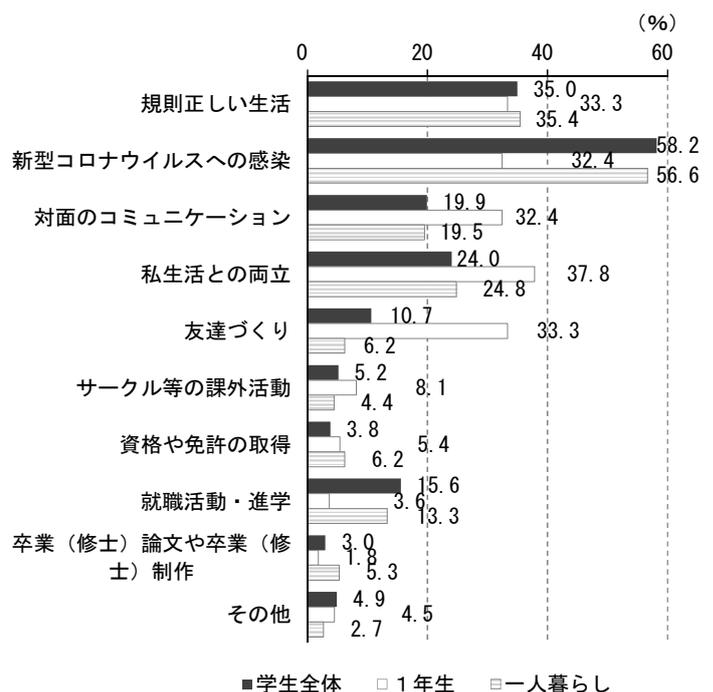
設問Ⅲ-6

不安の対象 ウイルス感染が最多、1年生では交友関係への不安が多い

通常授業の再開について、特に不安に感じることに、学生全体では「新型コロナウイルスへの感染」が58.2%と最多で、続いて「規則正しい生活」が35.0%、「私生活との両立」が24.0%となっている。

1年生は、学生全体に比べて、「新型コロナウイルスへの感染」が25.8ポイント少なく、「対面でのコミュニケーション」、「私生活との両立」、「友達づくり」がそれぞれ10ポイント以上多い傾向にある。

Q:通常授業が再開されることについて、特に不安に感じるのはどのようなことですか (設問Ⅲ-5「とても不安」「どちらかという不安」の回答者が対象、主なもの2項目まで選択)。(%)



その他の回答 (3件以上の類似回答があった項目)

- ・ゼミや演習に関すること (4件)
- ・通学にかかる負担 (4件)
- ・授業のペース (3件)

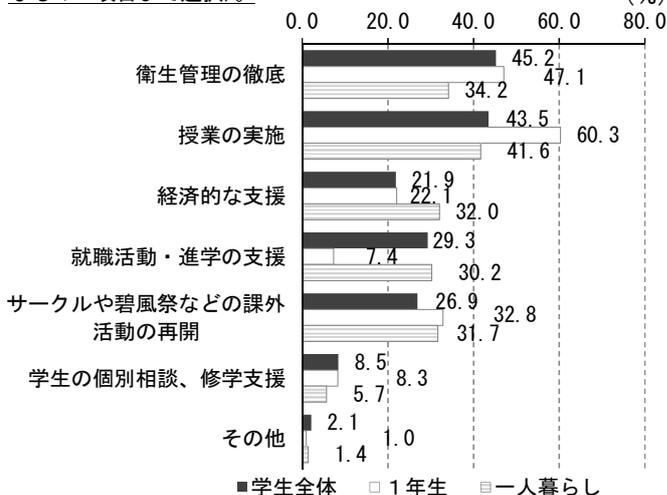
設問Ⅳ 新型コロナウイルス感染症対策について

設問Ⅳ-1 期待する取組 ▶ 学生全体では衛生管理が最多、1年生は授業の実施が最多

今後の大学に取り組んでほしいことについて、学生全体では「衛生管理の徹底」が45.2%と最多で、続いて「授業の実施」が43.5%、「就職活動・進学の支援」が29.3%となっている。

1年生では、「授業の実施」が60.3%と最多で、学生全体と比べて16.8ポイント高くなっている。

Q:今後の大学に取り組んでほしいことはどのようなことですか(主なものを2項目まで選択)。(%)



その他の回答(3件以上の類似回答があった項目)

講義形態・内容の改良(4件)

学内施設の利用制限緩和(4件)

設問Ⅳ-2 期待・要望 ▶ 授業、経済的な支援、学生支援、施設などで幅広い要望

Q:その他、大学に期待すること、要望したいことがあれば教えてください。

全回答のうち、10件以上の類似回答があった項目は以下のとおり(かっこの数字は類似の回答の数)。なお、分かりやすさや文体の統一のため、原文は文意を損なわない程度で加除修正している。

授業関連

> 対面授業の再開(26)

- ・後期からは大学での対面授業を再開してほしい。
- ・他大学は対面授業なのに、なんで文芸大だけ…とってしまうことがある。
- ・対面授業を安全に再開できる方法を検討してほしい。 など

> 遠隔授業の継続を希望(11)

- ・遠隔授業により煩わしい人間関係が無くなったことで自由に学べるようになった。
- ・学生の多くが県外出身のため、できる限り遠隔授業を継続してほしい。 など

> 課題・授業内容の改善(18)

- ・遠隔授業では課題が多すぎるため減らしてほしい。
- ・遠隔授業を続ける場合は課題の量の調節と授業時間の徹底をしてほしい。
- ・遠隔授業における成績評価、課題、授業形態などについて、公正で統一された基準やガイドラインをつくってほしい。 など

(次頁に続く)

学費・経済的な支援について

＞ 授業料の減額・返還 (19)

- ・施設が使用できない分の授業料を少しでも減額してほしい。
- ・後期も遠隔授業が続くようであれば学費の返還や免除をしてほしい。 など

学内施設について

＞ 施設利用制限の緩和 (13)

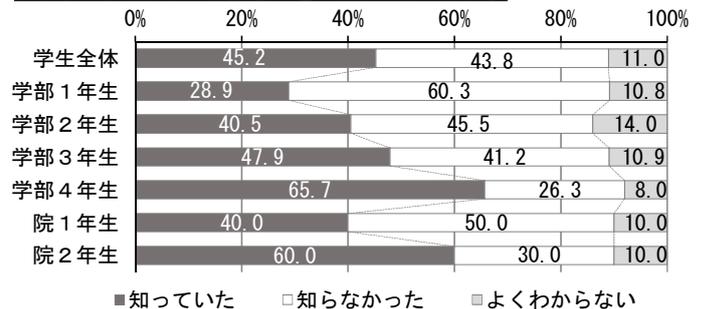
- ・早く施設が使えるようになってほしい。
- ・工房、体育館、部室が使えるようにしてほしい。

設問V ハラスメント（いじめ・嫌がらせ）について

設問V-1 相談窓口 知っている学生は5割弱

ハラスメントの相談窓口について、学生全体では「知っていた」が45.2%となっている。また、「知っていた」の割合は、学部・大学院とも学年があがるにつれて大きくなっている。

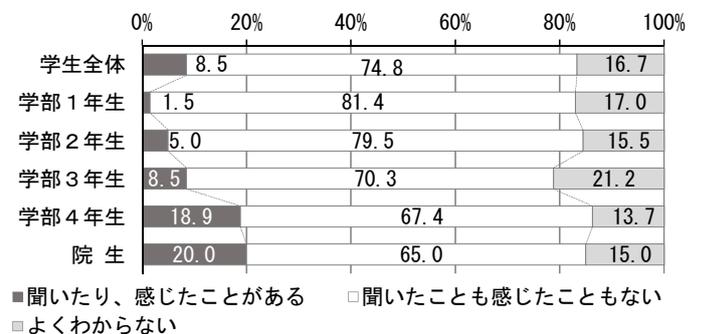
Q:大学では学内・学外それぞれにハラスメントの相談窓口を設けていますが、これらの相談窓口を知っていましたか。



設問V-2 被害の見聞き 1割弱の学生が被害を見聞きしたことがある

身の周りの人が受けた（受けている）ハラスメントについて、学生全体では「聞いたり、感じたことがある」が8.5%となっており、この割合は、学部では学年があがるにつれて大きくなっている。また、「よくわからない」は、学生全体で16.7%となっている。

Q:大学入学後、身の周りの人が本学の教職員や学生よりハラスメントを受けた（受けている）と聞いたり、感じたことがありますか。



(人)

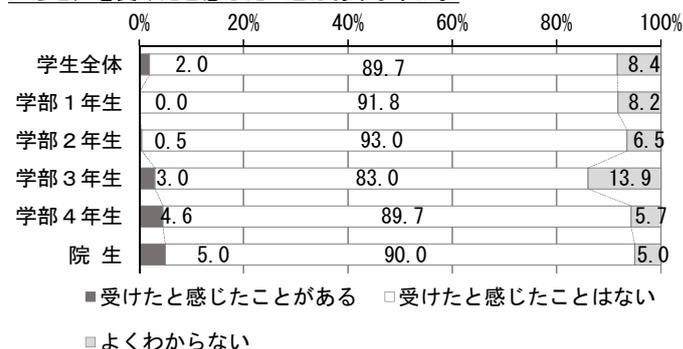
	学生全体	学部1年生	学部2年生	学部3年生	学部4年生	院生
聞いたり、感じたことがある	64	3	10	14	33	4
聞いたことも感じたこともない	564	158	159	116	118	13
よくわからない	126	33	31	35	24	3
合計	754	194	200	165	175	20

設問V-3 **自身の被害経験** 2%の学生が受けたと感じたことがある

大学の入学後、学内におけるハラスメントについて、学生全体では「受けたと感じたことがある」が2% (15人/754人) となっており、この割合は、学部では学年があがるにつれて大きくなっている。

「よくわからない」は、学生全体で8.4%となっている。

Q: 大学入学後、本学の教職員や学生からハラスメント(いじめ・嫌がらせ)を受けたと感じたことはありますか。



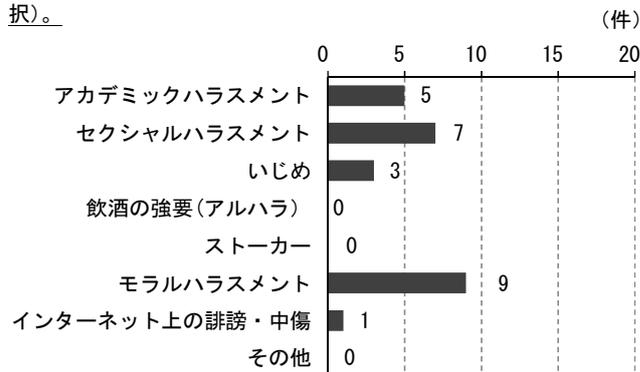
	学生全体	学部1年生	学部2年生	学部3年生	学部4年生	院 生
受けたと感じたことがある	15	0	1	5	8	1
受けたと感じたことはない	676	178	186	137	157	18
よくわからない	63	16	13	23	10	1
合計	754	194	200	165	175	20

設問V-4 **経験した被害** モラハラが最多、続いてセクハラ、アカハラが多い

大学入学後、学内で自身が経験したハラスメント被害の種類について、「モラルハラスメント※」が9件と最も多く、続いて「セクシャルハラスメント」が7件、「アカデミックハラスメント」が5件となっている。その他には「いじめ」が3件、「インターネット上の誹謗・中傷」が1件となっている。

※モラルハラスメント…道徳的でない言葉や態度による嫌がらせ

Q: どのようなハラスメントを受けたと感じましたか(設問V-3「受けたと感じたことがある」の回答者が対象、該当する項目全て選択)。



設問V-5 **被害の相談** 友人・知人への相談が最多

ハラスメント被害を受けた際の相談について、誰かに「相談した」は12人、「相談しなかった」は3人となっている。「相談した」と回答した人について、その相談相手は「友人・知人」が9件と最も多く、続いて「家族・親戚」「恋人・パートナー」「身近な教員」が3件ずつとなっている。

Q: ハラスメントを受けたと感じて、誰かに相談しましたか。具体的に相談した相手を教えてください。(設問V-3「受けたと感じたことがある」の回答者が対象、相談相手は該当する項目全て選択)。

相談した	人数
相談した	12
相談しなかった	3
覚えていない	0
合計	15

相談相手	件数	相談相手	件数
家族・親戚	3	大学の相談窓口	2
恋人・パートナー	3	学外の相談窓口	1
友人・知人	9	その他	0
身近な教員	3		

設問V-6 **相談しない理由** ▶ 単一ではなく、複合的な理由を抱えている

複数回答可としたため、回答者 3 人に対して、13 件の回答で、平均 4 件以上の理由をあげている。これより、相談しなかった理由は単一ではなく、複数の理由が重なって相談できなかった状況が見受けられる。相談しなかった理由は、「相談しても解決しないと思った」が 3 件、「大げさにはしたくなかった」が 2 件と、複数の回答となっている。

その他の回答

- ・事務局から教授に伝わって、単位に影響することが怖かった。

Q:相談しなかった理由を教えてください。(設問V-5「相談しなかった」の回答者が対象、該当する項目全て選択)。

相談しなかった理由	件数
相談しても解決しないと思った	3
今後の人間関係に支障がでると思った	1
他人に知られたくなかった	1
大げさにしたくはなかった	2
誰に相談したらよいか分からなかった	0
自分が我慢すればいいと思った	1
加害者から口止めをされた	0
証拠がなく、あきらめた	1
その他	1
合計	10

設問V-7 **大学への要望** ▶ ハラスメント防止にむけた前向きな意見が多数

Q:ハラスメントの防止に関して、大学に要望したいことがあれば教えてください。

全回答のうち、3 件以上の類似回答があった項目は以下のとおり(かっこの数字は類似の回答の数)。なお、分かりやすさや文体の統一のため、原文は文意を損なわない程度で加除修正している。

- ▶ 教職員・学生の意識啓発 (9)

 - ・どのような行為がハラスメントに当たるのかなど、ハラスメントについて大学全体で学ぶべき。
 - ・学生への指導をしっかりとしてほしい。サークル内でも嫌な思いをした友人もいるため、いま一度確認を徹底してほしい。 など
- ▶ ハラスメントに関する調査の定期的な実施 (7)

 - ・もっと調査をこまめに行っていれば、ハラスメントを未然に防げたのではないかと思う。
 - ・定期的にこのような調査を行うのはいい予防策になると思う。 など
- ▶ 相談窓口の認知度の向上(6)

 - ・ハラスメントの窓口を知らない人がいないようにしてほしい。
 - ・ハラスメントの相談窓口が存在することは知っていたが、どこにあり、何をすればいいのか知らなかった。もう少し認知してもらえるように工夫したほうがいい。 など
- ▶ 相談しやすい窓口の用意(5)

 - ・ハラスメントを受けたと感じた時に、本人等が伝えやすい環境作りをするべきだと思う。
 - ・気軽に相談できる環境がほしい。 など
- ▶ 相談窓口の匿名性の確保(3)

 - ・匿名性の高い窓口にしてほしい。 など
- ▶ ハラスメントのガイドラインの設置(3)

 - ・少し嫌だな、と思うことがあってもどこからがハラスメントに該当するのか分からないのでガイドライン等があるといい。 など